

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有)メイザン・メディカル グループホーム いこいの泉
(ユニット名)	さくら
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市泉町9番5号
記入者名 (管理者)	堂 脇 聖 子
記入日	平成21年 3月 1日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を基に4つのケアのモットーを掲げている。月1回のミーティングで反省し来月の目標を決めて取り組んでいる。地域との交流を大切にという考えを取り入れて取り組んでいる。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内である勉強会、ミーティング、申し送り等において考えて具体的に結びつけている。(振り返る機会としてチャンスとして)	○	新入職は、理念やケアのモットー が頭に入るように努力中である。ミーティングで理念を読んで実施に向けて取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会・いこいの泉通信・広報誌等でお知らせしている。又来訪者にも具体的にわかりやすく説明している。	○	都市型のホームにて、地域性に欠けるのが悩みではあるが、1つの方法としてこちらから行事のご案内を出している。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	親しみのある挨拶、お店の利用、理美容の利用をして気軽に声を掛け合ったり立ち寄ったりと助けて頂いたりして親しい間柄となっている又、声のかけやすい関係づくりをしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入している。こちらの行事(ホーム内である訪問や夏祭り)への参加や避難訓練にも呼びかけている。又、ホームを知って頂くために地域向けの広報誌も発行している。名山地域との交流を深めている(おはら祭・催し等)	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議に地域の方にも参加して頂きホームの成果等をお伝えしたり、様々な会合に係わりながら地域に貢献しているつもり。人材育成の一環としても実習生の受け入れもしている。	○	去年から中学生の職場体験学習も受け入れている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で読み上げ振り返っている。結果も全員で改善に取り組んでいる。	○	勉強会等で具体的な改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの近況報告を行い、意見交換し、話し合っサービス向上につなげている。会議が定着してきて協力得られ、サービス向上に活かしている。行事参加が得られる様になった。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の訪問等で関係づくりを継続している。又、困った事があつたら電話で相談し助言してもらっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会、身体拘束廃止委員会、事例検討会に取り入れ枝いる。又個別に必要な方に少しずつ繰り返し説明している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員を決めて、あれ？と思ったことを気づきの記録として残し、運営会議・ミーティング等で話し合い振り返り防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	市の介護相談員の来訪や利用者に応じて(主治医、市役所の生・保担当者)対応している。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	いつでも、どこでも、励ましの声かけがあったり、勤務形態の配慮をしている。例えば常勤からパート、長期休暇をとって頂くことで離職を防ぐ努力をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外のなるべく偏らないように、一覧表を作成して参加を促している。</p>	<p>○</p> <p>研修の広報は全職員に解りやすい見える所に掲示している。希望者に対しては勤務を調整している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内の連絡協議会にも入り、研修等に参加して、質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>20年度実施して取り入れて成果が得られている。交流が出来た。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>コーヒー・お茶を飲んだりして、職員同志で、会話してリラックスできる雰囲気づくりを心がけ、場所や時間の工夫をしている。年に1回親睦を図るため職員旅行を実施している。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各自、自分にあった目標を持ち、資格所得している。そのために(試験前後の休みの提供)を支援している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>事前に面談し、入居者の生活状況や身体機能について把握し、ホームでどのように過ごせるかよく聴いて検討している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>いつでも時間をかけて家族と向い合い問いかけ言葉かけに工夫して、安心して話して頂ける様に傾聴している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の思いを確認し、見極めながらサービスの利用につなげている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	先ず、見学して頂く。見学の時間は皆と一緒にお茶を飲んでいる時間に合わせて来て頂いて本人の様子をみながら家族と話し合っている。	○	入居当初は徐々に馴染める様に個性の強い入居者からの攻撃に合わない様に、常に見守り、フォローに努めている。又、御家族もいつでも気軽に面会できる様、雰囲気作りにつなげている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	その人にあった声かけ、スキンシップ、ジェスチャー、唄と一緒に歌ったりして共に過ごす時間を多くして会話して、その中から色々学ばせて頂いている。又共に台所、洗濯物たたみなどするとき健康管理にも気をつけている。人生の先輩として尊敬して学び支え合っている。	○	出来る人は出来る事を共にして出来ない方には意見を求め表現等で支えあう関係を築いている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会された時本人・家族・職員でお茶を飲む機会を設けている。そのことが喜怒哀楽を共にすることにつながるのでは？又、行事にも参加して頂き一緒に本人・家族が喜んでもらえる関係保持を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	広報誌や面会時に状態報告、生活の様子等お知らせしお茶をお出ししている。又、食事の披露・味見などして頂き親近感を築いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に見えたとき、静かにゆっくりと語り合える環境作りやおもてなしをしている。又、入居前と同じ様に生活空間が移動しただけと考えて、かかいつけ医・行きつけの美容院など今まで通り利用して頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う同志お話しできる環境・雰囲気づくりの工夫・テーブルの位置の工夫・入浴の順番の配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された時は面会に行き、オムツの補充・洗濯物のお手伝いをしている。いつでも声を掛けやすいようにこちらから訪問したり、電話相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話をする中で、いつもにない言葉・表情などを大切にしてひとりひとりの思いを把握する様に努めている。又、日々の記録を参考にして本人本意に検討している。	○	いつもにない言葉を表現された場合は大切にして必ず記録に残し、職員間で情報共有しその人の思いを把握する様に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	教えて頂ける範囲で過去の情報を大切にしている。その後も面会時の家族からの情報収集を行い、記録して本人を知ること深めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	表情・全身状態を観察しながら、本人のできる事・したい事・見たい物・外出・散歩・買い物・家事一般等把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録や本人、家族の思いを基にアセスメントしている。職員の意見やアイデアが反映していて入居者の思いとズレが生じていないか検討している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに見直し、評価を行っている。6ヶ月ごとにカンファレンスでアセスメントを行い、現状に即した計画を作成している。変化のあるときは、その都度見直し修正している。	○	モニタリングを基に変化のある時はその都度見直し修正して話し合っている。各担当者の近況報告を参考にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の本人の言動・具体的様子・場面影響、ケア者の気づき等個人ファイルに記入し情報を共有又生活日誌、申し送り簿にもケアの実践結果等記入し介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の都合により通院はホームで対応している。医療連携体制も充実している。定期的訪問看護ステーション・薬剤管理指導1回/1ヶ月。	○	協力医療機関と通院はホームで対応している。特定のかかりつけ医の医療連携体制も充実している。又、定期的な訪問看護ステーションの訪問と電話での助言で連携している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の要望に応じてよりよく安心して豊かな生活が送れる様に支援している。警察、ボランティア、消防等協力支援体制である。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	協力医療機関のケアマネ、ソーシャルワーカー、マザーハンド(マッサージ)等の方々と必要に応じて話し合い生活に結びつくサービス支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	関係が深まる様に運営推進会議への参加を呼びかけて話し合い地域の中で暮らす人々、入居者がよりよく暮らし続けられる様に協力している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の主治医が決まっていて相談できる環境にある。緊急時は協力医療機関があり近隣の為すぐ対応できる。訪問看護ステーションの利用により主治医との連携もとれる様な支援をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師により入居者、職員が相談して治療を受けられる様になっている。	○	専門医受診の必要性？と思う時もあるが上申により今の所、大きなトラブルはない様である。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションを利用し変化ある時はいつでも連絡しあって相談訪問して頂き健康管理につとめている。夜間協力医療機関と医療体制確保し対応。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時、面会お見舞物品(洗濯物・オムツ)の補充につとめ安心してすごせる様にしている。又、家族の思いを聞いて病院関係者と情報交換に努め、家族の要望を聞きながら早期退院に向けて病院側家族を支えて話し合っ連携を密にしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	緊急異変時、受診して結果を家族に即報告している重度化した場合は、本人家族の思い要望を繰り返し主治医に連携しながら話し合い方針を共有対応している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化、終末期に向けて医療連携にて訪看の指導助言を頂いたりDrの往診主治医との連絡調整をはかりながら本人の少しでもできること楽しめることを見極めて工夫しながら取りくんでいる。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今迄とできるだけ変わらない生活が継続できる様にプライバシー保護をしながら知り得た情報の伝達を行い防ぐことに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉のトーンに注意してさりげないしぐさ、言葉かけで対応する。又、本人の返答能力に応じた言葉かけの支援、人生の先輩として尊敬した言葉使いに気を付けている。	○ トイレ誘導・口腔ケアは、個々の能力によって、耳元でそっとお誘いして、プライバシーを損なわない様にしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	会話の中からその人に合った言葉かけや説明をして行っている。家事一般(洗濯物干し、取り入れさりげなくおく)趣味(色塗り、書道具は目のつく所においたり)強制する事なく自分で決め納得しながら楽しく生き生き暮らせる様に支援。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の性格、動作に合わせて一人一人のペースを守り、共に楽しむ様にしている。日々の食事は本人が望んだ時、覚醒した時にお出してその人らしくゆっくり食べて頂いている。美容院、散歩、買物等も希望にそって即支援する。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	いつでも本人の望む身だしなみコーディネートの声掛けをしている。例えば、理美容院は本人の望む店、化粧・化粧水をつけたり口紅、顔の髭剃りの支援。理美容院は一緒に行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好物の要望があると即取り入れている、又、温かい日には、入居者と共に買物を楽しんで行く支援。献立相談、味見をして頂いて味覚を刺激して食事を楽しむ事の支援。手指筋力低下の方には軽いお椀、スプーン、オニギリ等の工夫家事一般(食材さき・盛り付け・配膳下膳・台ふき・食器洗い・その他)自主的に参加され会話しながら楽しく行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	各個人が希望した栄養食品、酒、トマトジュース、ポカリ、朝食パン、手作り団子、養命酒、コーヒー、甘い菓子、オロナミンC等好みの品物をお出している。糖尿・高血圧・心臓病の既往の方は少々遠慮している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	誘導をして自立に向けて支援している。そのことにより、尿取りパット、オムツの使用を減らす努力につなげ、ウォシュレット使用にて気持ちよい排泄支援を行っている。手作りヨーグルト、繊維質の多い食材を使い便秘予防に心掛け、排泄習慣が徹底できる様に心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全身状態観察を行う。又、体温を測って異常のない時、入浴の声掛けを行い希望に合わせてマンツーマンで会話しながらつろいだ入浴につながるようにしている。抵抗がある時は、声かけの工夫をする。陰洗・清拭の代用を行う。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	シーツ交換寝具干しをして気持ちよく安眠できる様にしている。時に添い寝、温かいお茶をすすめる、個別に会話しながら休憩も取り入れ昼寝の声かけもする。昼、適度な運動環境作り、余暇時間の工夫を行う。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	台所、洗濯物等、出番を見出せる様に支援、会話し行動を共にする年間行事は必ず声かけて、役割の支援、リビングにあるオアシスに自由に花を生けて頂き、花の匂い季節を感じ喜び楽しみごと気晴らしの支援をしている。	○	食材の準備、盛り付け、配膳下膳等をして頂く。台所、洗濯物たたみ、干し等、出番を見出せる様にさりげなく見える場所においている。差し入れの花をテーブルにおいて自由に飾って頂く生活から引き出した歌を共に唄って楽しむ。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力量によってお金をもって買物、髪染め、パーマに行かれている。財布がないと言われる方は必要時に管理者に相談援助している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自ら買物、絵画、コーヒーのみに行きたいと言われた時は可能な限り一緒に行動している気候が良ければ近隣の見学(花)草取り等戸外にでかけられる様支援。	○	一人一人の能力、体調に応じて声かけて外出外食(バイキング)買物、散歩、草取り等を行っている。外出拒否気味の方には、寒い日を避けて玄関先、近隣散歩で戸外の空気を感じてもらう工夫をしていきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間を通して季節毎の行事その他出かけられる支援。例えば、そうめん流し、仙巖園の花菖蒲見学、水族館、垂水の道の駅(足湯)おはら祭り、秋の遠足、初詣、太鼓大会、おぎおんさあー。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話が使用できる様に届く場所に設置。個人の能力に合わせて、かけ方、とり方の支援。手紙を自ら書いた時、郵便局と一緒に行って切手を貼りポストへ投函する等見守りをする等、出来ない所を支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪された時は、自室・和室でゆっくり過ごして頂いている。その際は手を休めて笑顔で挨拶し、お茶、コーヒー、お茶菓子等お好みをお聞きしお出しする。時には共に会話し居心地よく過ごして気軽に来訪できる環境づくりに心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会設立し話し合い勉強会にも取り入れている。不穏時は散歩にて気分転換を図り、フラットと外出された時は一緒に行動する又見守る。気づきの記録を残すよう箱をセッティングしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間帯(19時～)は当直者一人の為に施錠している。日中は施錠していない。外に出かけて行かれる時は止めない。職員は財布と携帯電話をもって共に行動、見守りしている。不穏時の外出の時さりげなく身分証明書をカバンに入れたり危険防止の配慮として見逃さない様にチャイムで工夫。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	申し送り介護記録等は、リビング・和室で入居者の動きが把握できる様に安全確認に努めている。場をはなれる時職員同士で声をかけあって安全を守っている。常に見守りやすい場所で安全確認、面会人の出入り時特に注意している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	スクラップされる時のハサミは先の丸くなったハサミに変えていつでもどこでも持ち歩いて支障のない様にしている。又、洗濯場、リビング洗面所等誤飲のおそれのある物品の保管場所の管理(カーテン・目に触れない場所)に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットに基づいて、転倒等の事例を行って事故防止に取り組み火災予防の避難訓練、防火救急救命訓練等も行って事故防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	勉強会で消防士より救急法を習ったり急変事は管理者に連絡し近隣の協力医療機関に連絡し即対応している。救急マニュアルを目につく場所設置、職員の連絡網の徹底。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を消防士より詳細に指導をうけている。近隣に呼びかけて協力を得られる日頃のコミュニケーションがとれている	○	飲み物、非常食等、備えが実施されていないので、とり合えず少しでも実現していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランを説明する時に体調の変化全身状況等を説明している。訪看記録・各職員より情報収集して起こりうるリスク等家族と話合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常に入居者の表情顔色等観察し、日頃の排泄チェック表参考にして体調変化に留意、生活日誌・申し送り等でいつもと違う様子等に気づき、バイタルチェックする。速やかに病院受診・訪看への連絡対応早期発見に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回薬剤訪問の指導をうけている。個人ファイルに処方薬表を綴って誰でも副作用、用法・用量を理解できる様になっている。低血糖発作冷汗等特に注意。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	定時誘導を行ったり室内でできる立ち上がり練習、体操など少しでも体を動かす様にしたたり排泄チェック表を見て便秘予防に果物・牛乳・海草など食事、水分補給にも気をつけている。必要に応じて腹部マッサージ行う。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声かけをして実行している。自分で出来ない方は職員が介助して支援している。義歯の方はポリデントに入れ清潔保持に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の慎重・体重に応じて量を考えて、野菜を多く取り入れる様に心がけている。お茶は自由におかわりができるようにカウンターに準備している。夜間はペットボトルに湯冷ましを入れたり工夫している。又、定期的に献立を栄養士に見て頂き指導を受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザは職員・入居者全員接種している。感染症予防にはうがい・手洗いの励行又、いつでも使用できるように消毒液を(トイレ、洗面台)に準備している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事前、排泄後は手洗い徹底、うがいの励行。食材は毎日買い物に行き、その日の内に調理している。まな板・布巾のハイター消毒、冷蔵庫・冷凍庫の消毒掃除期限切れの点検を行い管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	一般の方との共有マンションでもあるので、ホームにご用の方にはわかりやすいように案内板を設置して入りやすいようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、自室等に季節の花を飾り、又、折り紙、節句にはひな壇、七夕・クリスマスツリー等飾り季節感を取り入れ、心豊かに過ごせるようにしている。ホール・居間は自由に動ける広さがあり、和室は畳で冬はコタツを置き家庭的な雰囲気有している。遮光カーテンで居心地よく過ごせる様にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にソファがあり、その時々々に気のあった利用者同士テレビをみながら会話が弾み楽しい居場所となっている。職員も横に座りいっしょに過ごすことも多々ある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	理念に基づきその人らしい部屋づくりに心がけている。馴染みの物使い慣れた家具、洗面道具、装飾品が持ち込まれて安心して過ごして頂いている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温に考慮しながら、空気の入換えをしている。暖房を使用している期間は濡れタオルを用意して、乾燥を防ぐようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所、要所に手すりの設置、浴槽には滑り止めマットの使用、便座にはウォシュレットをしようしている。流し台の高い方には、座布団を使用して使いやすいようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレ・浴室・自室など混乱される方にはわかりやすいように大きな字で書いたり、目印を作ったりと工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭に野菜を植えている。草取り、種まき、収穫を楽しまれている。ベランダの花、野菜と一緒に植えて成長を話題にしたり、水やりを日課にしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員間のチームワークもとれている。入居者・家族との信頼関係も保持されていて、相談・会話も自然であるように感じている。人間関係の調整が難しい場面もありますが、健康管理・転倒防止に気をつけながら入居者個々のできる事、したい事、望まれる事、大いに発揮出来るように可能な限り支援していきたいと思って取り組んでいます。